

石川県能登地域公共交通計画の概要

令和6年12月24日

第2回 石川県能登地域公共交通協議会

目 次

- | | | | |
|----|-----------------------|--|-----|
| 1. | 計画策定の目的・計画の位置づけ | | P02 |
| 2. | 能登地域の公共交通の現状及び問題点 | | P03 |
| 3. | 能登地域の公共交通が目指す将来像 | | P04 |
| 4. | 将来像の実現に向けた基本方針 | | P05 |
| 5. | 第一次計画における施策体系 | | P06 |
| 6. | のと鉄道の鉄道事業再構築事業実施計画の策定 | | P09 |
| 7. | 第二次計画検討の方向性 | | P11 |

1. 計画策定の目的・計画の位置づけ

目的・背景

- 能登地域の地域公共交通は、令和6年能登半島地震前から、人口減少、新型コロナ等により、**利用者が大きく減少**
- 震災により、**タクシー事業者の休廃業や路線バスの減便・迂回**を強いられる等、さらに厳しい状況
- 今後、能登が本格的な復興を果たしていくためには、将来の能登の姿を見据え、**持続可能なものとして再構築**していく必要
- 今般、協議会を設置し、4市5町における**広域的な地域公共交通計画**を策定

創造的復興プラン（抜粋）

（取組7）利用者目線に立った持続可能な地域公共交通

地域住民の生活の足として、さらに能登の交通結節点であるのと里山空港・のと鉄道からの二次交通としても重要な地域公共交通のあり方について、市町や交通事業者などと連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、将来の能登の姿を見据えた、地域公共交通のリ・デザイン（再構築）に向けた協議を行っていきます。

<内容>

- 自家用有償旅客運送やAIオンデマンド型交通、自動運転などの導入 など



（写真）小松市提供

（小松市で運行されている自動運転バス）

位置づけ

計画区域

4市5町（七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町）

計画期間

令和7年度～14年度（石川県成長戦略及び復興プラン目標年次）

計画の位置づけ

県の上位計画や各市町地域公共交通計画等と整合を図る

石川県能登地域公共交通計画






石川県（上位計画）

- ・石川県成長戦略
- ・石川県創造的復興プラン

各市町

- ・地域公共交通計画
- ・復興プラン

2. 能登地域の公共交通の現状及び問題点

	被災前から抱えていた問題点	被災を機に発生または加速した問題点
 <p>利用者・住民</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・少子高齢化による利用者の減少 通学の足が限られ、保護者の送迎が負担 高齢者の通院や買い物の移動サービスの低下・喪失 	<ul style="list-style-type: none"> 被災により<u>人口流出が加速</u> 移動手段を失った被災者（交通弱者）が増加 路線の長期運休による通学や通院等の生活の足への影響
 <p>交通事業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者減少及び採算悪化に伴う路線縮小・廃止の悪循環 慢性的な運転士不足 	<ul style="list-style-type: none"> 被災に伴う利用者減により、さらなる<u>路線縮小・廃止の悪循環に陥る懸念</u> 運転士自身の被災・避難による<u>運転士不足の深刻化</u> 被災による施設等の甚大な被害、復旧に多額の費用が発生
 <p>行政・地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一部地域で交通空白が見られ、面的な輸送サービス提供が困難 公共交通に係る<u>行政負担経費が増大</u> 通学や通院等の生活の足が確保されないことが、<u>中長期的な人口流出及び地域衰退の遠因</u> 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス等の<u>自治体での単独維持が困難</u>になり、交通空白の拡大が懸念 <u>復興まちづくりに合わせた移動手段の確保</u> <u>観光振興など地域活性化に向けた移動手段の確保</u>

3. 能登地域の公共交通が目指す将来像

利用者目線に立った持続可能な地域公共交通 地域公共交通をみんなで支え、ともに創る復興まちづくり

能登地域の暮らしと生業が将来にわたって持続し、被災の前よりもさらに魅力ある地域となるため、利用者目線で公共交通を再生し、能登の創造的な復興を交通で支える

利用者目線に立った持続可能な地域公共交通が実現したら・・・

若者・子育て世代にとっては・・・

- ・ 学生が、行きたい学校に通い、部活動にも参加できるようになります
- ・ 保護者にとっても送迎の負担が軽減されます
- ・ 若者・子育て世代が通学環境の心配なく地域に住み続けることができます

高齢者世代にとっては・・・

- ・ 運転に不安を抱えるお年寄りは、安心して通院できます
- ・ 送迎に頼っていたお年寄りは、好きなときに買い物に行けます
- ・ クルマなしで移動できることで、住み慣れた地域で快適に安心して暮らしていくことができます

能登と他地域との往来は・・・

- ・ クルマを運転できなくても、鉄道・バス・飛行機を利用して能登から金沢・全国へ移動できます
- ・ 観光等で能登を訪れた人が能登の隅々まで行き来し、新たな交流が生まれ、交流人口の創出・拡大につながります

4. 将来像の実現に向けた基本方針

将来像の実現に向けて、下記の基本方針で計画を策定。

なお、地震の影響により従来の公共交通網の姿が大きく変化している中で、今年度は**県都金沢と各市町を結ぶ広域基幹交通の構築**を「**第一次計画**」として取りまとめ、令和7年度にかけて、災害公営住宅の建設など恒久的な住まいの再建に合わせて**輸送資源の総動員による地域公共交通の再構築**を「**第二次計画**」として取りまとめる。

基本方針 1 | 持続可能な公共交通ネットワークの確立

基本方針 2 | 利用者目線に立った公共交通サービスの提供

基本方針 3 | 能登の創造的復興と活性化に資する公共交通の実現

第一次計画 **広域基幹交通の構築（R6年度取りまとめ）**




JR七尾線、のと鉄道及び金沢と能登を結ぶ特急バスを広域基幹交通と位置付け、確保・維持及び利用の拡大を図ります

第二次計画 **輸送資源の総動員による地域公共交通の再構築（R7年度取りまとめ）**

県、市町、交通事業者が連携し、利用者のニーズを丁寧に汲み取りながら、地域公共交通の再構築を検討します

5. 第一次計画における施策体系 (1/2)

基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの確立

<p>施策 01</p>	<h3>JR七尾線・のと鉄道の持続性確保</h3> <ol style="list-style-type: none">1. 安全運行の確保2. 業務効率化等による経営安定化3. <u>のと鉄道の鉄道事業再構築事業の実施</u>4. のと鉄道の普通列車の新型車両への更新	<h3>広域基幹交通の維持・確保</h3> <p>金沢への特急バス</p> <p>のと鉄道</p> <p>JR七尾線</p>  <p>J R 七 尾 線</p>  <p>の と 鉄 道</p>  <p>北陸鉄道特急バス</p>
<p>施策 02</p>	<h3>特急バスの持続性確保</h3> <ol style="list-style-type: none">1. <u>移動ニーズを踏まえた運行体系の見直し</u>2. <u>国・県・市町協調による路線維持への支援</u>3. 業務効率化等による経営安定化	

<p>施策 03</p>	<h3>旅客運送事業者の担い手の確保</h3> <ol style="list-style-type: none">1. 関係機関が連携した担い手確保の推進
-------------------------	--

<p>施策 04</p>	<h3>公共交通を利用するライフスタイルへの転換</h3> <ol style="list-style-type: none">1. 公共交通の利用に対する意識の醸成2. 定期利用者等に対するインセンティブの充実3. 運転免許証の自主返納者に対する支援
-------------------------	--

5. 第一次計画における施策体系 (2/2)

基本方針2 利用者目線に立った交通サービスの提供

施策
01

交通結節点の機能強化

1. 鉄道駅における列車待ち環境の改善
2. 主要バス停におけるバス待ち環境の改善
3. のと鉄道穴水駅及び周辺の再整備
4. パーク&ライドの推進



(例) ラクナはくい内バス待合室

施策
02

わかりやすく利用しやすい環境の整備

1. 交通DX（キャッシュレス化等）の推進
2. 住民や来訪者に対する一元的なわかりやすい情報提供
3. 各交通機関の連携による利便性の向上
4. バリアフリー化の推進



基本方針3 能登の創造的復興と活性化に資する公共交通の実現

施策
01

創造的復興に向けたまちづくりや観光施策との連携

1. 復興フェーズに合わせた誘客の推進
2. 復興まちづくりと連携した取組の推進
3. 観光列車「花嫁のれん」「のと里山里海号」の運行再開・魅力向上



(例) のと鉄道「語り部列車」

施策
02

地域等と連携した取組による交流人口の拡大

1. 駅周辺の賑わいづくりや企画列車・企画乗車券等の充実
2. 多様な媒体を活用した沿線の観光資源等の発信
3. 能登地域への観光誘客等に向けたPR推進



(例) のと鉄道の取組

のと鉄道の鉄道事業再構築事業実施計画の策定について

6. のと鉄道の鉄道事業再構築事業実施計画の策定

【策定趣旨】 のと鉄道の経営安定化・持続可能性確保を図るため、「石川県能登地域公共交通計画」の下に位置付けられる**特定事業計画**として、石川県、七尾市、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、JR西日本、のと鉄道で策定（国の認定により、国からの支援が拡充（補助率1/3→1/2））

■ 計画案の概要 （計画期間：R7年度～R16年度（10年間））

対象路線 のと鉄道 七尾線（七尾～穴水間：33.1km）
R5輸送密度：604人/日

事業構造の変更の内容 鉄道施設の整備費・修繕費の全額負担に関するのと鉄道と地方公共団体との協定の締結（活性化再生法施行規則第9条第2項）

利用者の利便の確保に関する事項

1. 鉄道施設等の更新による利便性向上

- 普通列車の新型車両への更新(R8～R10)
- 既存設備の改良（レール・まくら木等）



普通列車(現行)

2. 駅施設等における利便性向上

- デジタル乗車券の導入（キャッシュレス化対応）
- 列車待ち環境の改善
- 二次交通との接続強化
- バリアフリー対策の推進（ホームかさ上げ等）



3. 創造的復興に向けた利用促進

- 「語り部列車」のPR強化
- 「ポケモン列車」を活用したイベント実施
- 「のと里山里海号」の運行再開・魅力向上
- サイクルトレインの導入検討



語り部列車

4. 沿線企業や住民等と連携した利用促進

- 沿線施設等と連携した企画列車・企画乗車券の充実
- メディアを活用した沿線の見どころのPR
- 駅イベントの実施等による賑わい創出
- 地元利用者への運賃割引（定期利用者等）
- マイレール意識の向上（児童無料乗車体験等）



児童無料乗車体験

事業費計 約75億円（10年間計）
（主な内訳）
設備投資 44億円（うち車両関係34億円）
維持修繕等 27億円 など

事業の効果（R16年度）
①利用者数 46.5万人（再構築事業を実施しない場合：42.4万人）
②収支の均衡（再構築事業を実施しない場合：約▲1,500万円）

第二次計画検討の方向性

7. 第二次計画 検討の方向性

地域幹線交通（市町間を結ぶ一般バス路線）及び地域内交通（各市町運営コミュニティバス等）の具体的な課題

- 被災前より路線・ダイヤとも漸減傾向であり、震災後の道路状況や運転士不足の深刻化により、その傾向が加速化し、特に奥能登地域において被災前の全ての路線を維持することは困難な状況
- 一方で、高校生の通学や高齢者の通院等のクルマを運転できない方の生活交通として利用されている実態を踏まえると、利用者の利便性が損なわれないように再編していく必要
- 具体的には、能登地域の公共交通ネットワーク全体が機能不全に陥る前に、大量輸送が必要な路線・時間帯を分析し、路線バスとして存続させる路線、代替手段（AIオンデマンド交通やコミュニティバス等との統合）により存続させる路線等を検討していく必要がある



検討における視点（案）

- 限られた輸送資源において、メリハリのある輸送の実現を検討
 - ① 定住を支えるため、高校生の通学・高齢者の通院に重点を置いた路線・ダイヤ
 - ② 仮設・災害公営住宅など新たな居住拠点と隣接地区の都市施設（病院・買物等）を結ぶ路線・ダイヤ
- 特に、時間制約のより強い朝の通学輸送（上記①）の利便を優先した路線・ダイヤの確保を検討（現在のダイヤ編成も同様の考えに基づくものと思われるが、今後もその考え方を踏襲）

(第二次計画) 輸送資源の総動員による地域公共交通の再構築 イメージ (案)

輸送実績等のデータをもとに、大量輸送が必要な路線・時間帯を分析し、路線バスとして存続させる路線、代替手段 (AIオンデマンド交通等) により存続させる路線を検討。利用者の利便性が損なわれないように再編

〈検討イメージ〉

- 現役世代の定住を支えるため、**通学需要の確保を優先し**、朝の通学時間帯や大量輸送 (概ね10人以上/便) が必要な路線は、**定時定路線のバスを維持する**
- 日中の移動需要が分散する時間帯は、**AIオンデマンド交通や公共ライドシェア等**の新たな交通モードや制度の導入を検討し、**高齢者等の通院・買物へのアクセス向上を図る**
- **市町の域にとらわれず生活圏**を中心に交通網を形成
- 地域幹線交通 (市町間移動) だけでなく、**地域内交通 (市町内移動)** も合わせて再編
- **能登地域を全体1つのサービス** (アプリ、コールセンター) で完結することにより、**利用者・来訪者の利便性向上**

再編後イメージ

